

地域医療の視点からみた明治期の近代医療システム構築過程の解明



【中野キャンパス】 ヒューマンケア学部 看護学科 准教授

松村 紀明 Matsumura Noriaki

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード : 地域医療・医学史・医療史・医史学

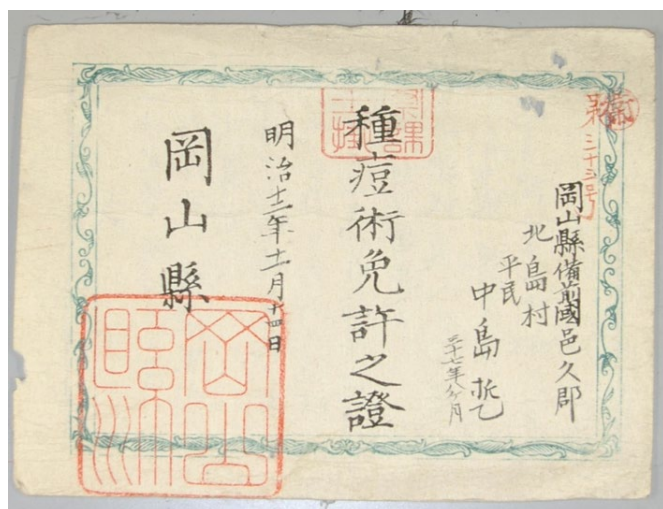


研究の概要

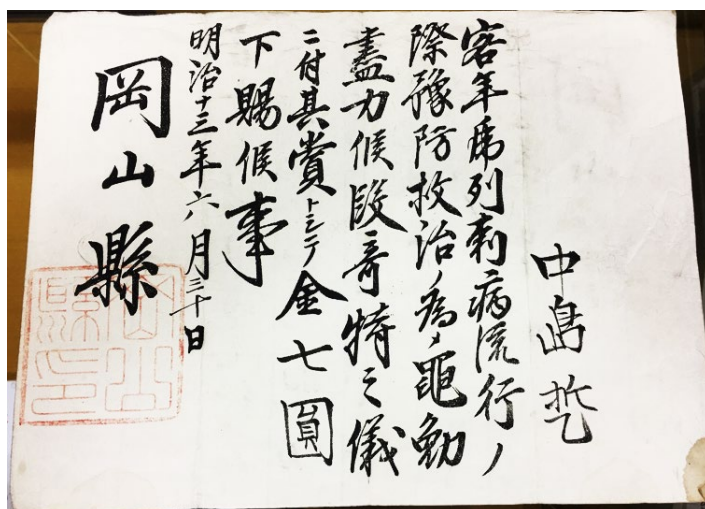
SDGs 目標 3：すべての人に健康と福祉を

明治初期日本における近代医療システムや公衆衛生システムの構築過程について、地域医療の視点からの解明に取り組んでいる。1874（明治7）年の「医制」の公布に始まる各種の近代的医事法令の制定に先導されながら日本の近代的な医療システムなどは整備されていった、というのが一般的な歴史認識となっている。

しかしながら、全国的にみても大多数の府県で免許医（近代的な医学教育を受けた医師）が従来開業医（いわゆる在村医など）を数的に上回るのは明治30年代以降であり、それまでは地域医療の現場の担い手は基本的に従来開業医であった。しかも彼らの活動は単なる日常的な診療の域に留まらず、医学教育・公衆衛生・防疫活動などの、一般に「近代的な医療活動」と呼ばれる分野にも及んでいた。彼らが明治期に地域医療の現場でどのような活動をおこなってきたのかを解明し、近代医療システムや公衆衛生システムの構築過程を問い直し、地域医療の視点からそれらの実像を明らかにすることを目指している。



種痘術免許証（明治12年）



コレラ流行時の医師への表彰状（明治13年）

実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

医療システムの構築を地域という視点（地域医療史という視点）から解明することは、地域社会における公共サービスの構築や維持という点へのヒントとなるだろう。

知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

【科研費】

- ・（基盤研究C）「在村医の視点からみた明治初期の近代医療システム構築過程」

【著作】

- ・「岡山の種痘 ～近世・近代の感染症との闘い～」
- ・「岡山の衛生と隔離病舎 ～近代の感染症との闘い II～」